

## 2017 SGH通信

【1年生配布用】

No.21 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

## 平成29年度 海外フィールドワーク体験記

私たちは平成29年度海外FWでベトナム、カンボジアに行きました。向こうでは、日本にはないような風習や文化に触れることができ、とてもよい経験になりました。一週間という短い期間でしたが、内容の濃い研修にすることができたと思います。

## ～企業訪問について～

私たちは現地にある日本から進出した企業や、農業に関する企業、合わせて三つの企業を訪問させていただきました。それぞれの企業訪問の様子を紹介したいと思います。

## O K B （大垣共立銀行）



日本でも広く活躍している大垣共立銀行は約5年前にアジアへの進出を開始し、現在ではアジア10カ国以上に拠点があります。海外進出は特別なことのように思っている人が多いようですが、今では岐阜に拠点がある企業の多くがベトナムをはじめとするアジア諸国に進出しているそうです。

その理由はアジアの人々は日本人より覚えが早く、器用で細かい作業が得意だからだそうです。

大垣共立銀行の日本での役割は銀行業務が主要ですが、ベトナムでは企業援助としての役割を果たしており、銀行としての利用者はまだまだ少ないそうです。ベトナムの大垣共立銀行で働いている人からベトナムの現状や、単身赴任してきた当初の話をいろいろ聞かせていただきました。ベトナムは多くの日本人が思っているより技術が高い国で、まだまだ地域格差はあるもののODAが世界一になるほど急成長を遂げている国です。そのため現在、課題先進国になりつつある日本にとって、日本と同等に発達しているベトナムへの支援を進めることが自国の現状と向き合うことになるのではないかとおっしゃっていました。海外へ進出した企業で、身近な大垣共立銀行に訪問することができ、より現実的にベトナムについて考えることができました



## 【ムトーテクノロジーハノイ】

ベトナムに進出している、プラスチック製造をしている会社である。私たちの身の回りにある、車のヒーターコントロールや、ビデオカメラ、ゲーム機などの精密金型を、設計、製作、成形、文字などの印刷など全ての段階をここで製造している。

企業内には、多くの従業員がいるが、そのうち30.8%が男性で、69.2%が女性従業員となっており、男女関係なくそれぞれ適した場所で働いている。

また、礼儀を大切にする日本のよい部分を伝えながらも、現地ベトナムの文化も取り入れた企業だった。ベトナムの交通手段はほとんどがバイクであり、発展した都市以外の場所では信号が少なく、深夜の出勤は危険である。しかし、金型部門という成形されたものを確認していく仕事は、24時間体制なため、1日3交代で働く必要がある。だから、日本では危険な深夜に通勤しなければならないところを、ベトナムでは深夜12時～2時頃の通勤はなくしている。

社長の話の中には、外国に進出する企業として、お互いの文化を理解し、尊重し合うことが大切だとあり、それは企業に限らず、私たちも大切にしていきたいと思います。



## 【Fruit and Vegetable Research Institute】

野菜、果物、花の研究を行い、出荷時期を変えたり、不安定な気候にも対応できる品種を生み出したり、さらにおいしいものを作り出したりしている研究所である。

まだ開発されていない広大な土地を生かし、たくさんの種類の野菜や果物が多くの技術を使って作ら



れている。柑橘類は、接ぎ木をすることでさらに甘い品種を作っている。また、左下の写真では、土を使わず、水でトマトを育てている。さらに、機械でサニーレタスを育てていて、たくさんの技術があることがわかった。

企業訪問を通して、日本との相違点だけでなく共通点もあることがわかった。このようにお互いの技術を共有していくことでお互いの発展につなげることができる。こういった外国にも目を向けて関わっていく姿勢が大切だと学んだ。